

サロンに「来てほしい人」がなかなか来てくれない…

➡ 運営する側が「サロン対象者」とひとくくりにしていませんか？

#### 【参加者からのヒント】

■私たちも元気なうちは自分で行きたい場所を自分で選んで決めている。サロンも同じで、体操の日は来るけれど、講演には来ないという人もいて、それでもいいと思います。

■私たちは、つい自分の気持ちで「来てほしい人が来ない」と思いがち。でもその人が「サロンに行きたい」と思っているとは限りません。だからこそ、サロンと見守りや声かけのつながりが大切だと思います。



参加者によって体力差が…みんなでレクリエーションを楽しめる工夫が知りたい！

➡ 「体力がある人」の方にばかり、合わせていませんか？

#### 【社協からのヒント～こんな事例がありました～】

- ①ある区のサロン、その日のメインは個人戦の“わなげ”でした。Aさんは、立った姿勢で投げることが難しく、別の参加者が「それならイスに座って投げたらしいよ」と提案。座って参加したのですが…
- ②2巡目に入ろうとした時、Aさんが「私だけイスを準備してもらうのは申し訳ないし2回目はしない」と一言。本当は、参加したそうな様子…
- ③そこで社協から提案。「2回目は、全員がイスに座ってしてみよう！」やってみると、意外と難しい…でも、みんな新ルールを楽しんでいる！
- ④結果はなんとAさんの優勝！次回は、初めから全員がイスに座ってすることになりました。

今回実施した2つの校区の中で、参加者のこんな感想がありました。  
「自分だけじゃなくて、みんな悩んでいると思うと少しほつとしました」

した。だから、今度お互いにサロンを見学しようと約束しました」

まずは、いちばん身近な「参加者」に聞いてみる。そして、自分の地域だけでなく、隣の区や参考になる取り組みをして

いる区と、互いの情報を交換する。

その流れは、今回のように校区に広がり、毎年社会福祉協議会が行っている町全体での「ふれあいサロン交流会」へとつながっていく。

サロンに限らず、どんなことであつても自分の暮らす区の中だけで完結するのは、難しい時代なんかかもしれません。だからこそ、今回実施していない校区でもぜひ、交流会を開催してみませんか。ヒントは意外と近くにありますよ！

答えがないからこそ、みんなで考える

できるなら回数を増やしたい！でも、負担が増えるのはちょっと…

➡ 内容を決めず、集まってお茶を飲みおしゃべりするのもオススメです！

➡ 隣のサロンを見学してみよう！



#### 【参加者からのヒント】

■参加者に「何がしたい？」と聞いてみると、意外にも「変わったことをしなくても、みんなで一緒にお茶を飲んで話ができるだけで十分」の一言。

それなら内容を考える負担もなく、回数を増やすことができました。

■「地域の居場所応援事業所リスト」を活用して、事業所の方に来てもらいました。内容をおまかせでき、プロの話や体操が喜ばれました！

■今回参加して「お互いのサロンを見学してみよう」と約束しました。どんな雰囲気なのか、今から楽しみです。

